

科目名 単位・時間	基礎看護学概論 (1単位 30時間)		27期生	1年次前期		
担当講師名	土井 恵子〔看護師〕 倉田 貴子〔看護師〕					
科目目標	看護の基本となる概念や看護倫理、基礎的理論について学ぶ。					
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考	
	1	看護の概念	1. 看護とは	土井	講義	
	2	看護の提供者	1. 保健師助産師看護師法 2. 職業としての看護 3. 看護職の養成制度と就業状況 4. 看護職者の教育と養成制度の課題 5. 目指す看護・なりたい看護師像		講義	
	3 4	看護の対象と健康	1. 人間の諸側面と環境 2. 人間の基本的欲求 3. 健康の定義 4. 国民の健康状態			
	5 6	看護の本質と看護理論	1. 看護の変遷 2. 看護理論家による看護の定義 3. 主要な看護理論家と看護理論		講義	
	7 8 9	看護理論を活用した看護の提案	1. 看護理論をもとに看護の本質を考える。 *発表：紙上発表		講義 演習	
	10 11 12	看護における倫理	1. 看護倫理とは 2. 倫理的意思決定 3. 看護者の倫理綱領 4. 看護実践における倫理問題への取り組み *討議法を含む		講義 演習	
	13 14	社会と看護	1. 看護サービス提供の場 2. 看護をめぐる制度と政策 3. 保健・医療・福祉における看護の役割 4. 現代の医療・看護に求められるもの 5. 今後の課題と展望		倉田	講義
	15		試験・まとめ		土井・ 倉田	
	使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学① (医学書院) 看護師の基本的責務 (日本看護協会出版会)				
	使用教材	パソコン、プロジェクター、配布資料ほか ※その都度指示する。				
	学習を支える情報	1. 本講義では、看護の本質、看護とは何か、看護師とはどのような役割を担い、どのように実践していくのかについての基本を学びます。 2. 学んでいく上では、自ら考えることを大切にしています。まず自分で考え、文字や言葉にして他者に伝え、他者の考えを聴く機会を多く取り入れ、看護についての考えを深めていきましょう。 3. 学習に当たっては教科書の熟読は必須です。				
	評価項目 評価割合 (%)	到達目標・評価項目			試験	
		1. 看護の本質と看護理論、および看護の提供者について理解できる。			80	
		2. 看護における倫理について理解できる。				
3. 看護の対象と健康、および社会と看護について理解できる。			20			

科目名 単位・時間	基本技術Ⅰ (1単位 30時間)		27期生	1年次・前期	
担当講師名	山口 美紀〔看護師〕 赤穂 美紀〔看護師〕				
科目目標	全ての看護学に共通する基本技術を学ぶ。				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当	備考
	1	看護技術の概念と看護記録	1. 看護技術とは何か。 2. 科学的根拠と安全に基づく技術 3. 看護記録の目的と機能 4. 看護記録の構成	赤穂	講義
	2 3	コミュニケーション技法	1. 看護場面におけるコミュニケーション 2. 関係構築のためのコミュニケーションの基本	山口	講義 演習
	4	安全管理の技術	1. ヒューマンエラーの特性と防止 2. 医療安全とは 3. 看護事故の構造と防止の視点 4. 看護事故防止の対策 (KYT)	山口	講義
	5 6	感染防止の技術	1. 感染防止の基礎的知識 2. スタンダードプリコーション 3. 感染経路別予防策 4. 無菌操作*	赤穂	講義 演習
	7 8 9 10 11 12 13 14	フィジカルアセスメント	1. フィジカルアセスメントの意義 2. バイタルサインの観察とアセスメント 1) バイタルサイン測定 * 2) 生体情報のモニタリング 3. フィジカルイグザミネーションの基本技術 (問診、視診、触診、聴診、打診) 4. 系統別のフィジカルアセスメント技術 1) 消化器系 * 2) 呼吸器系 * 3) 循環器系 * 4) 神経系 *	山口	講義 演習
	15		試験・まとめ	山口 他	
	使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 看護の統合と実践2 医療安全 (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院) 看護がみえる③フィジカルアセスメント (メディックメディア)			
使用教材	ホワイトボード、パソコン・プロジェクター、シミュレーター				
学習を支える情報	1. 全ての看護に共通する技術の基本を学びます。 2. 知識や机上の学習だけでは修得できません。根拠に裏づけされた確実な技術を身につけられるよう、反復練習しながら学習していきましょう。 3. *は演習を行います。 4. フィジカルアセスメントでは、【DVD】山内豊明教授のフィジカルアセスメント1, 2, 3, 4を活用しながら学びを深めましょう。				
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標			試験	
	1. 看護記録とコミュニケーションの意義と方法が理解できる。			15	
	2. 安全管理と感染防止のための基礎的知識が理解できる。			15	
	3. フィジカルアセスメントの基礎的知識と基本技術が理解できる。			70	
技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。					

科目名 単位・時間	基本技術Ⅱ (1単位 30時間)		27期生	1年次前期～後期	
担当講師名	土井 恵子〔看護師〕				
科目目標	対象のねがいに沿った看護を科学的根拠に基づいて実践するための基礎を学ぶ。				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考
	1 2	看護過程とは	1. 看護過程の構成要素 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方	土井	講義 演習
	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	患者のよりよい状態を目指し根拠に基づいた看護	患者に関心を向け、コミュニケーション技術を用いてその人全体を把握する。得られた情報の意味づけをし、根拠に基づいた看護を考える。		
	15		試験・まとめ		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② (医学書院)				
使用教材	ホワイトボード、書画カメラ、パソコン・プロジェクター				
学習を支える情報	<p>1. パフォーマンス課題が提示され、看護過程の展開技術(問題解決の思考過程)を学びます。</p> <p>2. パフォーマンス課題をとおして、6つの力(気づく力・観察力・クリティカルシンキング力・行動計画を立てる力・実行に移す力・客観的に評価する力)を身につけましょう。</p> <p>3. シミュレーションやグループワークで意見交換を行いながら自己の考えを発展させ学びを深めましょう。</p>				
評価項目 評価割合(%)	到達目標・評価項目		試験	パフォーマンス課題	
	1. 根拠に基づく看護の展開方法が理解できる。		70	30	
<p>パフォーマンス課題については、ルーブリックにより総合的に行う。</p> <p>パフォーマンス課題の評価日の8時50分までに課題の提出がない場合は評価対象とならない。</p> <p>評価項目のパフォーマンス課題・試験、それぞれが60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。</p>					

科目名 単位・時間	生活援助技術 (3単位 75時間)		27期生	1年次 前期・後期	
担当講師名	赤穂 美紀〔看護師〕 土井 恵子〔看護師〕 伊藤 知恵〔看護師〕 土田 絵里香〔看護師〕				
科目目標	対象の生活を整えるために必要な基本的援助技術を学ぶ。				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考
	1 2 3 4	環境を整える 技術	1. 環境とは 2. 病室環境のアセスメント 3. 療養環境の調整と整備 * 1) 環境整備 2) 臥床患者のリネン交換 4. 環境の意義と看護	土井	講義 演習
	5 6 7 8 9 10 11 12	活動・休息の 援助技術	1. 基本的活動の援助 (姿勢・ボディメカニクス・体位) 2. 活動と休息(睡眠)のアセスメント 3. 活動と運動を促す援助 4. 休息と睡眠を促す援助 5. 移動・移送の援助 * 1) 車椅子 2) ストレッチャー 6. 安楽を保つための援助 * 1) ポジショニング 2) リラクゼーション 7. 活動・休息の意義と看護	赤穂	講義 演習
	13 14 15 16 17	排泄の援助技術	1. 排泄のアセスメント 2. 自然な排泄を促す援助 3. 自然な排泄が困難な人への援助 * 1) 浣腸 2) 一時的導尿 4. 排泄の意義と看護	土田	講義 演習
	18 19 20 21	食事の援助技術	1. 食事と栄養のアセスメント 2. 治療食、療養食 3. 食事摂取の自立困難な人への援助 * 4. 嚥下障害のある人への援助 5. 非経口的栄養摂取の援助 * 1) 経管・経腸栄養法 2) 経静脈栄養法 6. 食事と栄養の意義と看護	伊藤	講義 演習
	22 ~ 36	清潔・衣生活の 援助技術	1. 清潔・衣生活のアセスメント 2. 清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助 * 1) 入浴・シャワー浴 2) 清拭 3) 寝衣交換 4) 洗髪 5) 部分浴 6) 整容 3. 清潔と衣生活の意義と看護	赤穂	講義 演習
	37		試験	赤穂他	
	38		技術試験(活動・清潔)	赤穂他	
	使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 系統看護学講座 人体の構造と機能3 栄養学(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)			
	使用教材	ホワイトボード、書画カメラ、パソコン・プロジェクター			
学習を支える情報	1. 患者の基本的ニーズを捉えその人の生活を整える技術を学びます。 2. 日常生活を送る中で患者にとって必要な援助とは何かを考え、その人に合った方法、留意点を考えます。 3. 患者のセルフケア能力の不足を補うだけでなく、年齢や疾患、状態に合った方法で援助を実施していきます。 4. 適時、グループで意見交換しながら、患者の思いも大切に考えていきましょう。*は演習を行います。				
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標			試験	技術試験
	1. 環境を整えるために必要な基礎的知識と基本技術が理解できる。			10	40
	2. 活動・休息の援助のために必要な基礎的知識と基本技術が理解できる。			10	
	3. 排泄の援助のために必要な基礎的知識と基本技術が理解できる。			10	
	4. 食事の援助のために必要な基礎的知識と基本技術が理解できる。			10	
	5. 清潔と衣生活の援助のために必要な基礎的知識と基本技術が理解できる。			20	
評価項目の試験・技術試験、それぞれが60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。 技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。また、技術試験については成績評価並びに単位の認定に関する規定に則り実施する。					

科目名 単位・時間	臨床看護総論 (1単位 30時間)		27期生	1年次前期・後期	
担当講師名	〔看護師〕 倉田 貴子 〔看護師〕				
科目目標	健康障害を持つ対象を理解し、状態に応じた看護と診療の補助技術を学ぶ。				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考
	1	経過別看護	1. 経過別看護の概念 2. 各期の特徴と看護 急性期・回復期・慢性期・終末期		講義
	2 3 4 5	呼吸・循環を整える技術	1. 呼吸・循環・体温調整のアセスメント 2. 酸素吸入療法 3. 吸入 4. 吸引 1) 一次的吸引(口腔*・鼻腔*・気管) 2) 持続的吸引(胸腔ドレナージ) 5. 排痰ケア * 6. 人工呼吸療法 7. 体温管理		講義 演習
	6 7	診察・検査・処置の 介助技術	1. 診察・検査時の看護師の役割 2. 検体検査の取り扱い (血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、髄液・ 髄液) 3. 穿刺時の介助 (胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺)		講義
	8 9 10 11 12 13 14	与薬の技術	1. 与薬における看護師の役割 2. 薬剤の種類と与薬方法、効果の観察 (経口、吸入、点眼・点鼻、経皮、直腸内*) 3. 注射 (皮下*・皮内・筋肉内*・点滴静脈内*) 4. 輸血の種類と取り扱い方法 5. 輸血時の看護	倉田	講義 演習 (基礎実 習室)
	15		試験・まとめ	倉田他	
	使用テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学、臨床検査 (医学書院) ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 (メディカ出版) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)			
使用教材	ホワイトボード、書画カメラ、パソコン・プロジェクター、シミュレーター				
学習を支える情報	1. 健康障害の経過や診察・検査・処置の側面から臨床看護を学びます。 2. これまで学んだ「検査と治療」「薬理学」「基礎看護概論」「基本技術Ⅰ」等の基礎知識を踏まえ、対象にとっての安全・安楽を考慮した診療の補助技術を習得しましょう。 3. 呼吸が障害されている対象への看護を学ぶために、医療機器業者の協力を得て人工呼吸器の取り扱いを学習します。 4. *は演習を行います。				
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標			試験	
	1.	経過別看護および治療過程における基本的な看護が理解できる。	10		
	2.	呼吸・循環を整えるために必要な基礎的知識と基本技術が理解できる。	30		
	3.	診察・検査・処置の介助に必要な基礎的知識と基本技術が理解できる。	10		
	4.	与薬をするために必要な基礎的知識と基本技術が理解できる。	50		
技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。					

科目名 単位・時間	看護の研究的視点 (1単位 15時間)	27期生	1年次・後期		
担当講師名	大竹 文〔看護師・保健師・非常勤講師〕				
科目目標	看護における研究の意義と必要性を理解し看護研究の基礎を学ぶ。				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考
	1 2	看護研究とは 事例研究とは	看護研究とは、事例研究とは、文献検索とは何かを知る。	大竹	講義
	3 4	文献検索方法の 実際 研究の倫理的配 慮クリティーク とは	パソコンを使い実際に文献検索の方法を知る。 研究の倫理的配慮について知る。 クリティークとは何かを知り、クリティーク発表 会にむけたまとめとディスカッションを行う。		講義 演習
	5	クリティーク 発表会	クリティークのグループワークのまとめと発表会 を行う。		発表
	6	研究計画書の 作成方法	研究計画書の作成方法を知る。		講義
	7	論文の書き方	論文の書き方を知る。		講義
	8	事例研究の実際 の進め方	事例研究の実際の進め方を知る。 研究の倫理的配慮を知る。		講義
	使用テキスト	黒田裕子の看護研究 step by step 第5版			
使用教材	パソコン・プロジェクター				
学習を支える 情報	講義を基にした文献検索やクリティークでは、個人のワークやグループワークを計画していま す。積極的に取り組んでください。				
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標			出席	提出 発表
	1. 看護研究とは何かを理解することができる。				
	2. クリティーク発表会を通してグループメンバーとディスカッション することができる。				
	3. 研究計画書の作成する能力を身につけることができる。				

科目名 単位・時間	基礎看護学実習 (2単位 90時間)	27期生	1年次・後期																					
担当講師名	赤穂 美紀他〔看護師〕																							
科目目標	健康障害のある患者を理解し、患者の願いを捉え、状態や状況に応じた看護がわかる。																							
実習場所 実習スケジュール 実習内容	<p>【実習場所】公益財団法人 柏市医療公社 柏市立柏病院 医療法人社団 協友会 柏厚生総合病院 社会医療法人社団 蛭水会 名戸ヶ谷病院</p> <p>【スケジュール・内容・方法】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>実習内容</th> <th>方法</th> <th>臨地・学内</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎看護学実習オリエンテーション</td> <td rowspan="2">・臨地の実習を効果的に行う準備をする。</td> <td rowspan="2">学内</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロアオリエンテーション ビジョン・ゴールの設定 実習準備</td> </tr> <tr> <td>3～12</td> <td>病棟オリエンテーション 看護実践</td> <td>・患者を1名受持ち実習する。 ・日々の学習はポートフォリオとリフレクションノートに残す。</td> <td>臨地</td> </tr> <tr> <td>13 14 15</td> <td>再構築</td> <td>・体験の共有 ・再構築 ・発表会で学びを共有する。</td> <td rowspan="2">学内</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>対話</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			日程	実習内容	方法	臨地・学内	1	基礎看護学実習オリエンテーション	・臨地の実習を効果的に行う準備をする。	学内	2	フロアオリエンテーション ビジョン・ゴールの設定 実習準備	3～12	病棟オリエンテーション 看護実践	・患者を1名受持ち実習する。 ・日々の学習はポートフォリオとリフレクションノートに残す。	臨地	13 14 15	再構築	・体験の共有 ・再構築 ・発表会で学びを共有する。	学内	16	対話	
	日程	実習内容	方法	臨地・学内																				
	1	基礎看護学実習オリエンテーション	・臨地の実習を効果的に行う準備をする。	学内																				
	2	フロアオリエンテーション ビジョン・ゴールの設定 実習準備																						
	3～12	病棟オリエンテーション 看護実践	・患者を1名受持ち実習する。 ・日々の学習はポートフォリオとリフレクションノートに残す。	臨地																				
	13 14 15	再構築	・体験の共有 ・再構築 ・発表会で学びを共有する。	学内																				
16	対話																							
学習を支える情報	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要綱を熟読し、学習の指針であるルーブリックをもとに、ビジョン・ゴール・具体的な戦略を立てて実習に臨みましょう。 2. 基本技術Ⅰ・生活援助技術で学んだ知識・技術を復習し十分練習しておきましょう。 3. 基本技術Ⅱで学んだ看護の展開技術を実践で活かしましょう。患者は身体的状態も心理面も変化していきます。患者に関心を寄せて関わり、日々の状態を捉え、思いに沿った看護を自ら考え実践することで、看護の喜びにつながっていきます。 4. 実習の中では患者をはじめ多くの人と相互交流しながら学習していきます。人との関わりの体験から人としての成長も目指しましょう。 5. 看護学生としての倫理観や責任を踏まえて行動し、自己の課題を解決する姿勢を持ちながら、主体的に学習していきましょう。 																							
評価概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績評価を受ける資格は、実習においては所定時間数の6分の5以上の出席とする。 2. 実習評価は、実習要綱の評価規準に基づき、ルーブリックにより総合的に行う。 3. 提出物の最終提出期限が守られない場合は、評価対象とならない。 																							